

講評一覧(各委員からの事前コメント)

評価項目	Vグループ	Wグループ	Xグループ	Yグループ	Zグループ
	講評	講評	講評	講評	講評
<b>I 安全性の高い耐震性能の確保についての提案</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイト波として、大正型関東地震から横浜市の提供した元禄型巨大関東地震の参考波まで幅広く、余裕度確認を実施し、その対応策として4階床下を免震層とする変位制御型高性能免震構造を提案、応答性状の向上を目指す上部・下部構造の剛性を高める軸面ブレースを設置するなど、耐震安全性に対する考え方を高く評価した。</li> <li>・平常時と発災時以降の市庁舎に必要とされる機能を的確に把握して、それを時系列に整理して、地震や津波に対する具体的な対応策を総合的に提案しており、評価した。</li> <li>・傾斜支持地盤には、地盤形状に応じた直接基礎と杭基礎を採用し、振れ応答の抑制のために地中連続壁杭を併用する提案をおこなっている。</li> <li>・検討用地震動に、横浜市の提供した元禄型巨大関東地震の参考波を含むなど、耐震安全性評価のプロセスを高く評価した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高制震オイルダンパーを用いた制振構造の採用で応答加速度を低減させることに成功しており、免震層を貫通する非常用EVの対策、3階EVのEXP.Jが必要になることを評価した。</li> <li>・免震構造に比べて、L2レベルで層間変形角が1/150、サイト波で1/125と大きくなり、地震時の安全性、地震後の業務継続に劣る。</li> <li>・周辺地盤の地盤改良、追加地盤調査の提案、オールケーシング杭の採用、地盤と杭をモデル化した詳細な解析など、傾斜地盤に対する基礎の安全性の確保の提案を評価した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高層階へのEV着床最下階の3階床下を免震層とすることで、EVのEXP.Jを無くしていることが特徴になる。免震層の設計は標準的であるが、上部・下部構造に制振ダンパーを設置して、応答性状を向上させるとともに高い耐震性能を確保していることを評価した。</li> <li>・構造・地震モニタリングシステムや、免震部材の取替対応、将来の設計用地震動増大に備えたダンパー追加に備えた事前の対応、サーバー室に転用可能な2層の全面荷重対応フロアなど、管理への配慮が優れている。</li> <li>・傾斜支持地盤には、地盤形状に応じた直接基礎と杭基礎を採用し、振れ応答の抑制のために最深部に大口径列杭を提案している。</li> <li>・追加地盤調査、連成3次元解析による検証、地盤減衰のばらつきを考慮した余裕度レベル地震動の作成など、信頼度の高い設計プロセスを評価した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4階床下に免震層を設け、EVコアフレームは低層部に貫入して2階床位置で免震支持する中間層免震構造を採用し、上部・下部構造にマスタダンパーと制振ダンパーを設置して、風と地震に対する応答性状を向上させるとともに高い耐震性能を確保していることを評価した。EVコアフレームと低層部の間に衝撃緩衝材を設置し、超巨大地震時の免震層の過大変形に対するフェイルセーフ機構としている。</li> <li>・建物地震被災度即時判定システムや、免震部材の取替対応・搬出入ルート確保、ヘビーデューティーゾーンの執務室内に自由な位置に設置可能など、管理への配慮が優れている。</li> <li>・傾斜支持地盤には、振れ応答の抑制のために最深部に地中連続壁を設け、支持層の深さに応じて、丸杭、耐震杭、節付き杭を設置している。</li> <li>・サイト波の応答スペクトルが示されていないが、3Dモデルによる広域地下構造モデル、敷地内地下構造モデルを用いて、サイト波を作成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4階床下に免震層を設け、上部構造は■■■■とスロッシングダンパーを、下部構造には鋼材ブレースを設け、風と地震に対する各階の応答がほぼ均一になるとともにゆれを大幅の低減できる、高い耐震性能を確保していることを評価した。免震層に■■■■を設置し、免震層の過大変形に対するストッパーとして機能する。</li> <li>・地震時建物健全性判定支援システムを導入し、地震後■■■■に市庁舎全館の構造体・内装の健全性の確認・通知や、免震部材の交換時の搬出入ルート・作業スペースの確保など、管理への配慮が優れている。</li> <li>・工学的基盤の傾斜による地震時に生じる地盤全体の振れ変形や残留変形を抑制する。鋼管コンクリート杭と格子状地盤改良工法を組み合わせた提案と、それを3次元非線形解析により建物の安全性の検証することを評価した。</li> <li>・サイト波の作成では、長周期成分を割増す安全側の設計姿勢を評価した。</li> </ul>
<b>II 効果的で先進的な環境技術についての提案</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ESP選定や横浜アイランドタワーとの連携について詳細な検討を行っており評価できる。執務空間の執務者個人の快適性に配慮された上で、最終的なBEI値による省エネルギー性も確保されており高く評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間期に想定される新たな自然換気システムに期待が持てる。空調方式も比較検討した上で選定しており、快適性と省エネルギー性の観点から検討を試みている点は評価できるが、相対的にBEIが高く、課題が残る。</li> <li>・大きな庇による環境負荷の低減(PCa部材)ただし、四隅の腰壁がない庇の固定が不安定になる危惧がある。</li> <li>・四隅のエコポイドの煙突効果は期待できるのか不明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜アイランドタワーとの連携について様々な課題分析を行っている。自然換気等の外気活用による熱負荷削減量は高く評価できる。BEI値も相対的に低く、評価できる。</li> <li>・ダブルスキンカーテンウォールの採用。</li> <li>・コーナー部のエコポイドの煙突効果は期待できるのか不明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調システムにおいて、西側の熱融通や運転方式の切り替えなど多様な技術によりエコ空調を提案している点が評価できる。BEI値による省エネルギー性も高く評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ESP事業者選定に対して地冷の実績数が充実しており、技術支援に期待が持てる。またこれらの熱源を活用して空調・照明のエネルギー削減量は効果は高いが、相対的にBEIが高い点が課題。</li> </ul>
<b>III 低層部分(1階から3階)における建築・構造・設備の高度技術と建築デザインに関する総合的な提案</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根付き広場において、熱環境及び環境保全性(周辺環境配慮)に配慮した提案であることを評価した。</li> <li>・屋根付き広場「濱ひろば」から水辺の「濱てらす」への空間的つながりが広がりには多様な活動を受け入れる空間として期待が持てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準的な提案である。(屋根付広場については、熱環境及び環境保全性(周辺環境配慮)に関する性能が他の提案より劣る。)</li> <li>・広場部分の側面がモバイルウォールとなっており、運用に費用が掛かると、設置・解体が難しいのではないか。</li> <li>・半屋外化されている屋根付き広場が特徴となっている。屋根付き広場と大岡川沿いの空間とのつながりがやや薄いのが難点。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根付き広場において、熱環境及び環境保全性(周辺環境配慮)に配慮した提案であることを評価した。</li> <li>・市民プラザ、市民ギャラリー、水際線プロムナードの連続性、回遊性を評価。アイランドタワーとの連続性創出も巧みである。多くの面で、北仲地区ガイドライン、募集要項やコンセプトブックに合致しつつ、新しい市庁舎としてのシンボル性も創出している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根付き広場において、熱環境及び環境保全性(周辺環境配慮)に配慮した提案であることを評価した。(低層部の外装については、メンテナンス性、修繕の容易性を懸念。)</li> <li>・屋根付き広場・木漏れ日広場から木とレンガのパサージュにより、大岡川とつながっている。市民協働スペースがこもれび広場と一体的にフレキシブルに一体利用できそうな点もよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根付き広場において、熱環境及び環境保全性(周辺環境配慮)に配慮した提案であることを評価した。(森のルーフについては、海に近い敷地において維持する困難を懸念。)</li> <li>・緑化の低層部の外壁に垂れた樹木のメンテナンスなどで、難あり。</li> <li>・水辺に出現した森。森に包まれた市庁舎を特徴としている。屋根付き広場と水辺広場をつなぐ街のような賑わいスペースも。地区のまちづくりコンセプトの担保はどう考えたか疑問も残る。</li> </ul>
<b>IV 高層部分における建築・構造・設備の要素と外観デザインに関する総合的な技術に関する提案</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準的な提案である。(外装材の耐久性、修繕の容易性、日常的なメンテナンス作業時の安全性の点で他の提案に劣る。)</li> <li>・水平基調のリズミカルな外観は、グリーンロビーやエコバルコニー、スカイフォレストなどの工夫も含め、評価できる。一方、アイランドタワーとの連続性確保については不十分な面もある。</li> <li>・議会・議場の独立性に反するが、横線を強調した外観デザインとして評価する。</li> <li>・議場の存在が外部からは判りにくい設計内容となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準的な提案である。(外装材の耐久性、修繕の容易性、日常的なメンテナンス作業時の安全性の点で他の提案に劣る。)</li> <li>・L型大型PC大型ひさしが特徴の外観、シンボリックな円形議場も含めて特徴となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷低減の工夫、外装材の耐久性の高さ、日常的なメンテナンス作業時の安全性の高さを評価した。</li> <li>・垂直ラインを基調とした高層部デザインが、アイランドタワーやこれから建設予定の北仲地区のビル群との連続性を生み出し、ゲート性も生み出す。さらに議場の形態が落ち着いた中にシンボル性を高めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷低減の工夫、外装材の耐久性の高さ、日常的なメンテナンス作業時の安全性の高さを評価した。</li> <li>・ブリックファサードによる中景としてのゲート性の創出をねらっている。ブリックファサードと高層棟ガラスタワーとの関係は無造作であり、魅力的でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準的な提案である。(外装材の耐久性、修繕の容易性、日常的なメンテナンス作業時の安全性と効率性の点で他の提案に劣る。)</li> <li>・PCひさしによるファサード形成。建物全体が緑の森。透明性ある議場の創出。</li> <li>・議場の透明感を強調するデザインとなっているが、資料ではその具体的な仕様分らず、実現性が不明。</li> </ul>
<b>V 設計・施工のプロセス、体制と地域経済・文化への貢献等についての提案</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計事務所と総合工事業者が、その特徴を活かして役割分担を果たすとともに、密な協働を果たす設計活動、第三者的な監理を行う体制となっている。工事中の市民からの要望を取り込む体制、仮囲いのギャラリー化、作業所Web、地元業者への発注、など具体的な考え方を示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PM/CMチームを総合窓口として立ち上げ、プロジェクト遅延の防止対策を図っている。ホームページ、情報プースの設置、市民講座の開設などで、本プロジェクトを含む横浜の建築文化の向上を図ろうとしている。また、地元業者への発注、仮囲いへの仮設照明の設置やイベント時のライトアップなどによる環境配慮を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BIM技術の積極的な活用や総合調整室を設けて、プロジェクト総合工程表による別途工事も含めた施工コンソーシアムによる運営を目指している。また、工事監理については設計事務所を参画させて行う仕組みを採用している。施工段階でのワークショップを計画しており、市民の理解を得た工事運営を図っている。現場Web、仮囲いへの夜間照明など横浜アイランドタワーと連携した環境保全を積極的に進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計事務所4社がそれぞれの部分を担当する設計コンソーシアムを参画させ、総合工事業者との連携を持ちながら、プロジェクトを運営する体制を作っている。また、各種の専門コンサルタントとも連携する体制もある。工事期間中は、インフォメーションセンターの設置、Web、YCCなどで情報の発信を行い、仮囲いアートや緑化仮囲い、更には夜間照明などによって環境保全を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランディング専門家を設計に参画させて横浜のイメージを高める設計内容を模索し、議場設計に精通した設計事務所に議場を担当させ、レベルの高い設計組織を目指している。また、工事中は、大震災時へ市民への対応、資材の陸上運搬経路についても配慮している。また、養生シート、仮囲いのキャンバス化、建築文化の発信も行っている。</li> </ul>

提案者のノウハウ等の一部をマスキングしています。